

長崎県内の女性の身体的不調に関する調査

— (その3) 就業状態による差異について —

大石 和代¹ 宮市 和子¹ 加藤奈智子¹ 古田 真司²

要旨 女性の身体的訴えの就業状態による差異を明らかにするために、長崎県在住の20歳から59歳の女性1,094人を対象に、「冷え性」や、自律神経系の症状等の有無について自記式アンケート（無記名）調査を行なった。対象を20歳～39歳と40歳～59歳に分けて、常勤、自営、パートの3就業状態と無職の4群間で比較した。その結果、39歳以下では自律神経系愁訴の有訴率とその内容、月経中の有訴率とその内容、産婦人科系疾患による受診率で就業状態による有意の差異を認めたと、40歳以上では就業状態による差異は小さかった。

長崎大医療技短大紀 8: 23-28, 1994

Key words : 長崎県, 健康婦人, 不定愁訴, 就業状態

I 緒言

近年、女性の労働人口は年々増加し、その増加数、増加率は共に男性を上回っている。また、いわゆる男女雇用機会均等法の制定により、女性の就業制限が緩和されたことに伴い、労働負荷も量的、質的に変化している¹⁾。しかし、一方では、女性は男性とは異なる身体的な特性をもっていることから、女性特有の健康異常も多いと言われている。

我々はこれまで、長崎県内の女性の身体的健康について、その地域間差および年齢階層間の差異について検討を行なってきた。その結果、女性の身体的な健康には居住地域や年齢階層間で差異があることが明らかとなった^{2, 3)}。

本報では、前報と同一調査の資料を用いて、長崎県内の女性の健康像が就業状態によってどのように修飾されているかを検討し、今後の女性の健康管理に有用な資料を提供する目的で分析を行なった。

II 研究方法

長崎居住の20歳から59歳の女性を対象に、いわゆる「冷え性」の自覚や、自律神経系の症状を中心とした不定愁訴の有無、月経の順・不順、月経前および月経中の症状や仕事の内容、勤務の形態と労働内容などについて自記式アンケート（無記名）調査を行なった。実施期間は1992年3月から5月であった（詳細は文献2を参照のこと）。

回答の得られた1,113名のうち、今回は、就業状態別に分析するため、職業の記載のあったもの1,094名を分析対象とした。その際、年齢による就業状態の偏りを考慮して、①20歳～39歳（以後、39歳以下と略す）と、②

40歳から59歳（以後、40歳以上と略す）に分けて集計を行なった。常勤有職女性の職種は、事務、販売、技能系など様々であり、自営業や農業、パート労働者、学生、主婦なども含まれている。今回は就業状態を①常勤、②自営、③パート、④無職に分けて分析した。

自律神経系不定愁訴に関しては、阿部ら⁴⁾がCMIを参考として選んだ43項目について調査した。そのうち11項目以上を訴えたものを「多愁訴者」とした。

月経周期は日本産科婦人科学会に従い、周期25日～38日で周期日数の変動が6日以内の者を正常とした。

月経前と月経中の症状（月経前緊張症、月経困難症）に関しては、いくつかの症状の有無を尋ねた。症状の軽重の判断に際しては、症状の数に関係なく自覚的にふだんと変わらないものは「症状なし」、つらいと感じるもの（我慢している）は「軽い症状」、薬を服用したり寝込んだりすることがあるものを「重い症状」とした。

III 結果

対象者の就業状態別人数を表1に示した。20歳～39歳では常勤が322名（53.5%）と最も多く、次いで無職が159名（26.4%）、パートが63名（10.5%）、自営が58名（9.6%）であった。一方、40歳～59歳では常勤が177名（36.0%）、無職129名（26.2%）、自営112名（22.8%）、パートが74名（15.0%）であった。

就業状態別に見た結婚率、子供の有無の割合を表2、表3に示した。39歳以下では、結婚の有無と子供の有無に就業状態による差が見られ、常勤の結婚率と子供のいる割合は他の就業状態より有意に低かった。しかし、40歳以上では、有意な差は見られなかった。

就業状態別に見た主な身体的症状を比較したのが表4

1 長崎大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻

2 愛知教育大学

表1. 対象者の就業状態別人数

① 20歳～39歳	
1) 常勤職	322名 (53.5%)
内訳:	
事務職	109名 (18.1%)
販売職	42名 (7.0%)
技能職	136名 (22.6%)
作業職	27名 (4.5%)
その他	8名 (1.3%)
2) 自営業	58名 (9.6%)
3) パート勤務	63名 (10.5%)
4) 無職	159名 (26.4%)
<合計>	602名
② 40歳～59歳	
1) 常勤職	177名 (36.0%)
内訳:	
事務職	70名 (14.2%)
販売職	31名 (6.3%)
技能職	36名 (7.3%)
作業職	37名 (7.5%)
その他	3名 (0.6%)
2) 自営業	112名 (22.8%)
3) パート勤務	74名 (15.0%)
4) 無職	129名 (26.2%)
<合計>	492名
<全体合計> 1094名	

表2. 就業状態別に見た結婚の有無

結婚している割合	
① 20歳～39歳	
1) 常勤職	43.0% (n= 321)
2) 自営業	91.4% (n= 58)
3) パート	92.1% (n= 63)
4) 無職	93.7% (n= 159)
① 40歳～59歳	
1) 常勤職	90.1% (n= 177)
2) 自営業	95.6% (n= 112)
3) パート	98.7% (n= 74)
4) 無職	95.4% (n= 129)

表3. 就業状態別に見た子供がある人の割合

① 20歳～39歳	
1) 常勤職	37.1% (n= 321)
2) 自営業	91.4% (n= 58)
3) パート	87.1% (n= 63)
4) 無職	90.6% (n= 159)
① 40歳～59歳	
1) 常勤職	86.7% (n= 175)
2) 自営業	92.9% (n= 112)
3) パート	100.0% (n= 74)
4) 無職	94.5% (n= 128)

表4. 就業状態別に見た主な身体的症状

① 20歳～39歳		常勤	自営	パート	無職	(x2検定)
a) 冷え性の有無	n=317	n= 58	n= 60	n=152		p=0.9033
1) 冷え性でない	106(33.4)	21(36.2)	20(33.3)	50(32.9)		
2) 冬のみ冷える	109(34.4)	20(34.5)	25(41.7)	58(38.2)		
3) 冬以外も冷える	102(32.2)	17(29.3)	15(25.0)	44(28.9)		
b) 自律神経系愁訴	n=316	n= 57	n= 61	n=153		p=0.0304*
1) 少ない	225(71.2)	41(71.9)	49(80.3)	127(83.0)		
2) 多い	91(28.8)	16(28.1)	12(19.7)	26(17.0)		
c) 医療機関受診	n=322	n= 58	n= 63	n=159		p=0.0988
1) なし	259(80.4)	52(82.5)	55(87.3)	139(87.4)		
2) あり	63(19.6)	6(17.5)	8(12.7)	20(12.6)		
d) 月経周期	n=316	n= 58	n= 63	n=158		p=0.5108
1) 順調	244(77.2)	49(84.5)	51(81.0)	126(79.7)		
2) 不順	68(21.5)	8(13.8)	10(15.9)	27(17.1)		
3) 無月経	4(1.3)	1(1.7)	2(3.2)	5(3.2)		
e) 月経前の症状	n=296	n= 54	n= 55	n=151		p=0.9258
1) ひどい	18(6.1)	4(7.4)	5(9.1)	11(7.3)		
2) 軽い	45(15.2)	7(13.0)	9(16.4)	18(11.9)		
3) ない	233(78.7)	43(79.6)	41(74.5)	122(80.8)		
f) 月経中の症状	n=293	n= 55	n= 57	n=153		p=0.0010**
1) ひどい	96(32.8)	16(29.1)	7(12.3)	27(17.6)		
2) 軽い	59(20.1)	7(12.7)	12(21.1)	27(17.6)		
3) ない	138(47.1)	32(58.2)	38(66.7)	99(64.7)		

注) *:p<0.05, **:p<0.01, 数字は人数, ()内は%を示す。

② 40歳～59歳		常勤	自営	パート	無職	(x2検定)
a) 冷え性の有無	n=168	n=108	n= 71	n=127		p=0.0471*
1) 冷え性でない	71(42.3)	55(50.9)	37(52.1)	57(44.9)		
2) 冬のみ冷える	67(39.9)	37(34.3)	17(23.9)	35(27.6)		
3) 冬以外も冷える	30(17.9)	16(14.8)	17(23.9)	35(27.6)		
b) 自律神経系愁訴	n=167	n=109	n= 72	n=129		p=0.7785
1) 少ない	129(77.2)	88(80.7)	55(76.4)	97(75.2)		
2) 多い	38(22.8)	21(19.3)	17(23.6)	32(24.8)		
c) 医療機関受診	n=177	n=112	n= 74	n=129		p=0.5477
1) なし	124(70.1)	82(73.2)	57(77.0)	88(68.2)		
2) あり	53(29.9)	30(26.8)	17(23.0)	41(31.8)		
d) 月経周期	n=173	n=108	n= 74	n=127		p=0.0046**
1) 順調	124(71.7)	78(72.2)	57(77.0)	77(60.6)		
2) 不順	28(16.2)	10(17.9)	4(5.4)	14(11.0)		
3) 無月経	21(12.1)	20(18.5)	13(17.6)	36(28.3)		
e) 月経前の症状	n=132	n= 84	n= 53	n= 87		p=0.5500
1) ひどい	7(5.3)	2(2.4)	1(1.9)	5(5.7)		
2) 軽い	17(12.9)	14(16.7)	7(13.2)	7(8.0)		
3) ない	108(81.8)	68(81.0)	45(84.9)	75(86.2)		
f) 月経中の症状	n=144	n= 86	n= 56	n= 90		p=0.6773
1) ひどい	16(11.1)	5(5.8)	4(7.1)	11(12.2)		
2) 軽い	14(9.7)	12(14.0)	5(8.9)	9(10.0)		
3) ない	114(79.2)	69(80.2)	47(83.9)	70(77.8)		

注) *:p<0.05, **:p<0.01, 数字は人数, ()内は%を示す。

である。冷え性の割合(「冬のみ冷える」と「冬以外も冷える」の合計)は39歳以下では差がみられなかったが、40歳以上では、常勤と無職に冷え性が多くなっていた(p<0.05)。自律神経系愁訴の訴えが多い人(43項目中11項目以上)の割合は、39歳以下では常勤と自営に多かったが、40歳以上では差はなかった。受診率は、39歳以下では常勤でやや多くなっていたが有意な差はなかった。また、40歳以上でも差はみられなかった。

月経の不順者の割合は、39歳以下、40歳以上ともに就業状態による差異は認められなかったが、月経が順調な

者の割合は40歳以上でのみ無職で低かった。閉経者の割合も無職で多いことと考え併せると、年齢構成の差異が大きな影響を及ぼしていることが推察された。

月経前の症状および月経中の症状については月経がない人を除外して集計した。その結果、月経前の症状では39歳以下、40歳以上のどちらの年代でも就業状態による差異はなかった。しかし、月経中の症状は39歳以下の場合、常勤(32.8%)と自営(29.1%)に重い人が多く、パート(12.3%)、無職(17.6%)では少なかった。40歳以上では差異は認められなかった。

表8. 過去1年間の受診状況(複数回答)

① 20歳~39歳

	常勤	自営	パート	無職	p値 (χ ² 検定)
	n=322	n=58	n=63	n=159	
1) 心臓病	1(0.3)	0(0.0)	2(3.2)	1(0.6)	0.0714 NS
2) 糖尿病	1(0.3)	1(1.7)	0(0.0)	0(0.0)	0.2479 NS
3) 高血圧	4(1.2)	1(1.7)	1(1.6)	0(0.0)	0.5083 NS
4) 自律神経系の病気の病気	3(0.9)	1(1.7)	0(0.0)	3(1.9)	0.6221 NS
5) 自律神経失調症	7(2.2)	1(1.7)	0(0.0)	1(0.6)	0.4250 NS
6) 産婦人科の病気の病気	26(8.1)	0(0.0)	3(4.8)	4(2.5)	0.0159 *
7) その他	25(7.8)	2(3.5)	3(4.8)	11(6.9)	0.5922 NS

注) *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001, 数字は人数, ()内は%を示す。

② 40歳~59歳

	常勤	自営	パート	無職	p値 (χ ² 検定)
	n=177	n=112	n=74	n=129	
1) 心臓病	5(2.8)	4(3.6)	0(0.0)	5(3.9)	0.4130 NS
2) 糖尿病	3(1.7)	2(1.8)	0(0.0)	3(2.3)	0.6522 NS
3) 高血圧	13(7.3)	10(8.9)	5(6.8)	11(8.5)	0.9328 NS
4) 自律神経系の病気の病気	4(2.3)	3(2.7)	0(0.0)	1(0.8)	0.3893 NS
5) 自律神経失調症	5(2.8)	5(4.5)	1(1.4)	10(7.8)	0.0987 NS
6) 産婦人科の病気の病気	13(7.3)	7(6.3)	6(8.1)	13(10.1)	0.7228 NS
7) その他	19(10.7)	6(5.4)	6(8.1)	7(5.4)	0.2519 NS

注) *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001, 数字は人数, ()内は%を示す。

「仕事をすると疲れきる」は自営に多くなっていた。全体的に常勤と自営に訴えが多い傾向がみられた。一方、40歳以上では、就業状態別に大きな差は見られなくなるが、「よく便秘をする」は常勤に、「肩や首すじがこる」は自営に、「朝起きるといつも疲れている」「乗り物による」はパートに、「気候の変化で調子がかわる」は無職に、それぞれ多かった。

月経前および月経中の症状18項目の就業状態別集計を表6、表7に示した。月経前の症状では就業状態による差は、39歳以下では「頭痛・頭重」が自営で31.6%と他の就業状態の15~17%より有意に高かった(p<0.05)。また、「胃痛」も自営(8.8%)や常勤(6.7%)でパート(3.3%)、無職(1.3%)より高かった。常勤では「考えがまとまらない」も高かった。40歳以上では、「お腹が張る」が自営で他の就業状態の場合より低率であったことのみが有意の差異であった。月経中の症状では、39歳以下で最も顕著な差異が認められたのは「手や足の関節が痛む」であり、自営(8.9%)、常勤(2.5%)で有訴者があったが、パート、無職では皆無であった。続いて大きな差異が認められたのは「下腹部が痛む」「疲れやすくなる」であり、前者では常勤(54.9%)無職(48.7%)で高く、後者では自営(26.8%)と常勤(23.2%)で高かった。「頭痛・頭重」「食欲がなくなる」「不機嫌になる・いらいらする」「考えがまとまらない」も常勤で高くなっていた。また、40歳以上では、「下痢になる」「疲れやすくなる」が無職に、「眠れなくなる」が自営に多くなっていた。

過去1年以内の医療機関受診状況(複数回答)を表8に示した。39歳以下の場合、常勤に産婦人科の病気が多かった他は就業状態による有意な差異は認められなかった。

IV 考 察

本研究は、就業状態別の女性の身体的症状の違いを明らかにし、女性の健康問題を考える上での有用な資料とすることを目的としている。働く女性における不定愁訴や月経異常についてはいくつかの報告^{5,6,7,8)}がある。本研究では、就業状態を常勤、自営、パート、無職の4つに分けて分析した。

本報の結果としてまず指摘されることは就業状態による不定愁訴の有訴率や月経異常の割合が39歳以下で顕著

であることである。女性のライフサイクルの中で20歳から39歳は結婚、出産、育児などの家事負担の大きい時期である。更に、常勤や自営では家事以外の労働負担が大きく、自律神経系の有訴割合が他の就業状態より高いことも、家事と家事以外の労働負担の大きいことを物語っているといえよう。また、愁訴の内容も常勤で「肩や首筋がこる」「疲れてぐったりする」「朝起きるといつも疲れている」、自営で「腕がだるい」「仕事をすると疲れきる」「少し仕事をしただけで疲れる」という疲労に関する訴えの多いことも大きい労働負担を物語っている。古田ら⁵⁾によると、常勤の教師や保母の月経中の訴えの頻度が家庭婦人より高いと報告されている。本報でみられた常勤と自営で症状の強い女性が多いこともこれらの報告と一致している。女性の40歳から59歳の時期は、ほとんどの子供が就学し、家事から解放され、再就職をしたりパートに出ることの多くなる時期である。また、閉経をめぐって更年期症状の発現する時期でもある。この年齢層では就業状態による訴えの差異は39歳以下より少ないものの、「嘔気・嘔吐」「便秘」「肩や首筋のこり」「疲れ」といった症状では有意な差異が認められた。さらに、これらのうち「腕がだるい」「朝起きるといつも疲れている」「乗り物酔い」における有訴率がパート勤務者で最も高い。39歳以下では就業状態によって差がみられた項目で最も高率であったのは常勤または自営であった。また、月経前あるいは月経中の訴えも無職あるいはパートで有訴率が低い傾向が認められた。これらのことは、39歳以下では就業状態による影響が大きいのに対し、40歳以上では加齢あるいは閉経による生理学的変化が女性の健康に大きな影響を与えていることが示唆された。

女性の健康管理という視点からは、39歳以下では職業保健における労働負担の軽減が大きな課題であり、40歳以上では地域保健での加齢変化の遅延・健康増進を図っていくことが重要であろう。

ご指導いただきました長崎大学医学部公衆衛生学教室主任、竹本泰一郎教授に心より感謝いたします。

文 献

- 1) 経済企画庁編: 国民生活白書平成4年版. 大蔵省印刷局, 1992, pp62-101.
- 2) 大石和代, 宮市和子, 加藤奈智子, 古田真司: 長崎

女性の身体的不調

- 県内の女性の身体的不調に関する調査 —(その1) 地域差について—. 長崎大医療技短大紀, 1992, 6:1-8.
- 3) 大石和代, 宮市和子, 加藤奈智子, 古田真司: 長崎県内の女性の身体的不調に関する調査 —(その2) 年齢階層間差について—. 長崎大医療技短大紀, 1993, 7:69-75.
- 4) 阿部達夫, 筒井味春: 自律神経失調症—不定愁訴症候群を中心として—. 金原出版株式会社, 1968.
- 5) 古田真司, 内山美代子, 宮尾克: 働く女性における不定愁訴の検討(会議録). 産業医学, 1994, 36:57.
- 6) 前田和子: 働く女性の健康の実態—貧血と訴えの調査より—. 公衆衛生, 1990, 54:230-234.
- 7) 石津澄子: 働く女性の労働の変遷と健康問題. 公衆衛生, 1990, 54:226-229.

Investigation on physical problems in women in Nagasaki prefecture
— (3) Differences of frequency of complaints by working condition —

Kazuyo OISHI¹, Kazuko MIYAICHI¹, Nachiko KATO¹, and Masashi FURUTA²

1 Advanced course for Midwifery, Associate degree of Nagasaki University

2 Aichi University of Education

Abstract Using self rating questionnaire, frequencies of unidentified complaints, presumably due to disorders in autonomic nervous system were compared among four working conditions of 1094 women in Nagasaki prefecture: full-time or part-time employed women, women in self-managements and housewives. Frequencies of complaints related to autonomic nervous system and to menstrual period and of visiting gynecological clinics were largely varied among working condition in the younger age group (20-39 years old). The extent of differences by working condition was however, small in the older age group (40-59 years old).

Bull. Sch. Allied Med. Sci., Nagasaki Univ. 8: 23-28, 1994